

原著：秋田大学医短紀要 7：123-130, 1999.

学校種別にみた看護学生の看護に対するイメージについて (2)  
 - 入学動機別および学生の背景別の比較 -

Comprative Study of the Image of Nursing in Students' Mind  
 among Vorious Nursing Eduvational Institutions (2)  
 :Compration Considering Students' Admission Motives and Background

平 元 泉\* 石 井 範 子\* 平 むつ子\*\*  
 小 林 明 子\*\*\* 堀 井 雅 美\*\*\*\*

Izumi HIRAMOTO\* Noriko ISHI\* Mutsuko TAIRA\*\*  
 Akiko KOBAYASHI\*\*\* Masami HORII\*\*\*\*

1. はじめに

看護学生の看護に対するイメージについて、看護系短期大学生を対象に行った調査で、学年、入学動機、家族背景との関連があることを明らかにしてきた<sup>1)2)3)</sup>。また、卒業期にある看護学生の看護に対するイメージについて、看護系短期大学、専修学校3年課程および2年課程で比較した調査では、学校種別の特徴が認められた<sup>4)</sup>。

そこで、看護系短期大学と専修学校3年課程および2年課程の学生の、入学時における看護に対するイメージについて、入学動機別および家族に看護職者がいるかないかという家族背景別、また、2年課程での出身校や臨床経験の有無別に比較検討しその影響を明らかにするこ

とを目的に調査を行った。

II. 方 法

1. 対象：A大学医療技術短期大学部看護学科1年生84名（以下、短大生とする）、B看護学院3年課程1年生55名（以下、専修3年とする）、C看護学院2年課程1年生45名（以下、専修2年とする）、合計184名。

2. 調査方法：調査は、入学まもない4月に実施した。20の形容詞対を提示したSD法による看護に対するイメージ測定を実施した。調査用紙には、入学動機および家族に看護職者がいるかどうかの家族背景、専修2年には、衛生看護科（以下、衛看と省略）および准看護婦養成所（以下、准看と省略）の出身学校および臨床

\*秋田大学医療技術短期大学部看護学科

\*\*秋田県立衛生看護学院

\*\*\*中通高等看護学院

\*\*\*\*秋田県福祉保健部医務薬事課

Key Words：看護イメージ、  
 看護学生、  
 学校の種類

経験の有無（准看護婦か看護助手か区別した）の記入欄も設けた。

3. 分析方法：看護に対するイメージ測定は、各尺度で好意度が大きければ評定値が小さくなるように7段階法で評定した。各尺度毎に平均値を算出し、それぞれ $\chi^2$ 検定、t検定、一元配置分散分析を用いて比較した。

### III. 結 果

#### 1. 入学動機別の看護に対するイメージ

全体でみると、人や人の世話に興味があり、看護職にあこがれて入学した学生（以下、動機づけ大群）は122名、あこがれ以外の理由、すなわち「めざす学校の不合格・経済的理由」な

表1 学種別にみた入学動機別人数

n = 184

	動機づけ大群	動機づけ小群	合計
短大生	58	26	84
専修3年	41*	14	55
専修2年	23	22	45
合計	122	62	184

\*: p < 0.05

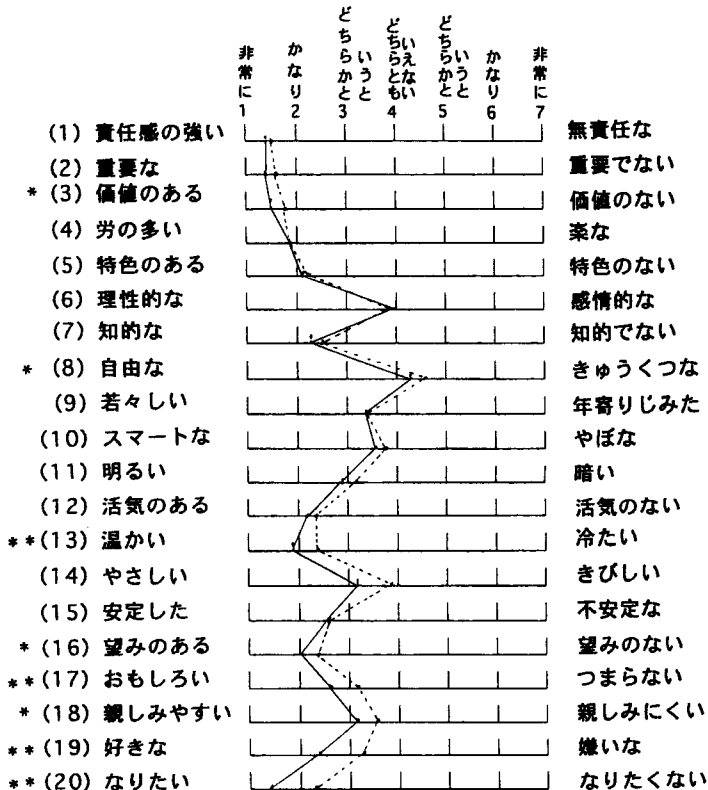


図1 入学動機別看護イメージのプロフィール (全体)

どで入学した学生（以下、動機づけ小群）は62名であった。動機づけ大群の人数は、短大生58名（69%）、専修3年41名（75%）で、専修2年の23名（51%）より有意に多かった（表1）。

20の形容詞対の各項目の平均値を比較した結果は図1の通りであった。3校全体では、「温かい」「面白い」「好きな」「なりたい」の4項目（ $p < 0.01$ ）、「価値のある」「自由な」「望みのある」「親しみやすい」の4項目（ $p < 0.05$ ）で、動機づけ大群の平均評定値が有意に低かった。

動機づけの大群の看護イメージを学校種別に比較した結果は、表2の通りであった。短大生では「好きな」「なりたい」「望みのある」「温かい」の4項目（ $p < 0.01$ ）、「面白い」「価値

のある」の2項目（ $p < 0.05$ ）、合計6項目で有意差が認められた。専修2年では「好きな」「親しみやすい」「明るい」「なりたい」の4項目で有意差がみられた（ $p < 0.05$ ）。専修3年では「面白い」（ $p < 0.01$ ）、「活気のある」（ $p < 0.05$ ）の2項目で有意差が認められた。

## 2. 家族背景別の看護に対するイメージ

父母、兄弟、祖母など家族に看護職者がいる学生（以下、背景あり群）は、全体では34名、家族に看護職者がいない学生（以下、背景なし群）は154名であった。看護に対するイメージ測定の結果は、図2の通りであった。背景あり群において、「特色のある」（ $p < 0.01$ ）、「活気のある」（ $p < 0.05$ ）で平均評定値が有意に低かった。

表2 学校種別にみた入学動機づけ大群の看護イメージ

n = 122

No	項 目	短大生 n = 58	専修3年 n = 41	専修2年 n = 23
1	面白い	*	**	
2	活気のある		*	
3	安定した			
4	労が多い			
5	好きな	**		*
6	若々しい			
7	親しみやすい			
8	スマートな			*
9	価値のある	*		
10	理性的な			
11	明るい			*
12	重要な			
13	責任感の強い			
14	なりたい	**		*
15	望みのある	**		
16	特色のある			
17	温かい	**		
18	自由な			
19	やさしい			
20	知的な			

\*:  $p < 0.05$

\*\* :  $p < 0.01$

学校種別に比較すると、表3の通りであった。短大生では「特色のある」、専修2年では「安定した」で有意差がみられた ( $p < 0.01$ )。専修3年では有意差はみられなかった。

### 3. 専修2年における出身校別および臨床経験の有無別の看護に対するイメージ

専修2年を出身校別にみると、衛看15名、准看30名であった。看護に対するイメージ測定の結果は、図3の通りであった。衛看が「温かい」( $p < 0.01$ )、「自由な」「活気がある」( $p < 0.05$ )の3項目で、有意差が認められた。

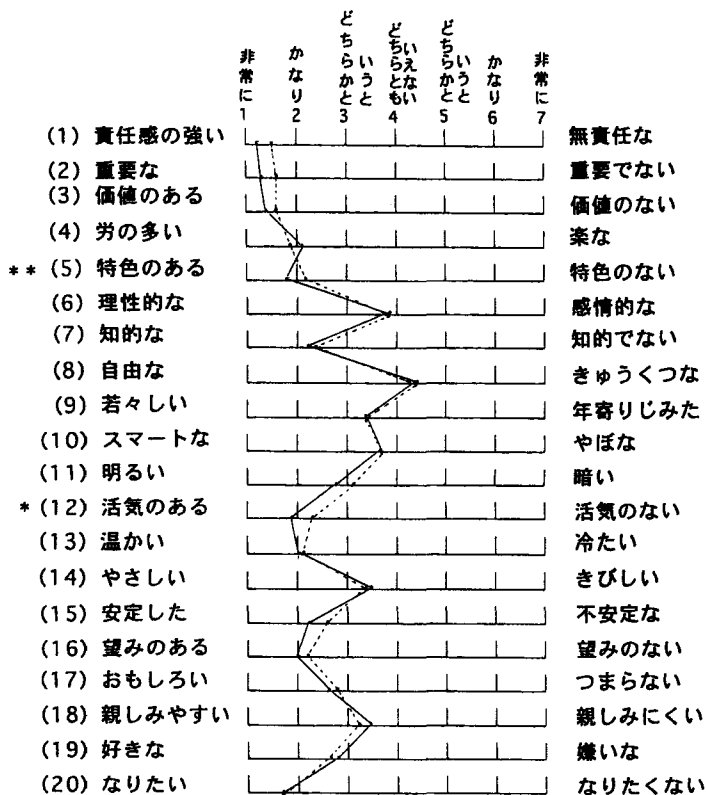
臨床経験の有無をみると、図4の通りであった。准看護婦6名、看護助手21名で、何らかの

臨床経験のある者は27名、臨床経験のない者は18名であった。臨床経験の有無別に看護イメージを比較した結果、「自由な」の1項目のみに有意差が認められた ( $p < 0.05$ )。

## IV. 考 察

### 1. 入学動機別の看護に対するイメージ

学生全体でみると、入学動機づけ大群は約6割であった。学校種別で比較すると、短大生および専修3年の入学動機づけ大群の割合が高いことが示された。入学時の看護職への志向の強さは、看護系短大生の3年課程より2年課程の学生が低いという報告がある<sup>5)</sup>。これは、「准看



\*  $p < 0.05$     \*\*  $p < 0.01$

—— 家族背景あり群    - - - 家族背景なし群

図2 家族背景別看護イメージのプロフィール (全体)

護教育や実務経験を通して看護の現状を知り、躊躇したり消極的になっている」と解釈されている。本調査においても、短大生や専修3年課程の学生は、入学時から看護職に対する志向を強く持っていることから同様の解釈ができる。

さらに本調査では、学校種別に入学動機づけ大群の看護に対するイメージを比較した結果、短大生が専修3年および2年よりも有意に好意度が高いことが明らかになった。入学動機の相違は、学習意欲や学習イメージに長期に影響を及ぼすと報告されている<sup>6)</sup>。われわれも、短大生を対象とした縦断的調査で、入学動機づけが大きい学生は、入学から卒業まで一貫して看護に対するイメージが好意的であることを明らかにした<sup>7)</sup>。今回は入学時を対象としたものであ

り、これらの学生の看護に対するイメージが各学習過程において、どのように変容するか、現在縦断的な調査の進行中である。しかし、卒業時の看護に対するイメージについて、学校種別に比較した調査<sup>8)</sup>では、短大生、専修3年、専修2年の順に好意度が高いことが示されている。したがって、入学動機づけは入学時から一貫した影響を及ぼすことや、学校種別の特徴があることをふまえて、教育のねらい、育成したい人材の特徴を明らかにした教育を展開していく必要がある。

## 2. 家族背景別の看護に対するイメージ

看護短大生は一般女子短大生よりも、身近に看護職者を有する割合が高く、短大生で肯定的な見方をする者は看護職への志向が強いという

表3 学校種別にみた家族背景あり群の看護イメージ

n = 34

No	項 目	短大生 n = 18	専修3年 n = 7	専修2年 n = 9
1	面白い			
2	活気のある			
3	安定した			**
4	労が多い			
5	好きな			
6	若々しい			
7	親しみやすい			
8	スマートな			
9	価値のある			
10	理性的な			
11	明るい			
12	重要な			
13	責任感の強い			
14	なりたいたい			
15	望みのある			
16	特色のある	**		
17	温かい			
18	自由な			
19	やさしい			
20	知的な			

\*: p < 0.05

\*\* : p < 0.01

報告がある<sup>9</sup>。本調査では、全体では家族に看護職者を有する群が「特色や活気がある」とみなしていることがわかった。学校種別では、家族に看護職者を有する短大生は「特色がある」、専修2年は「安定した」職業とみているが、専修3年では明らかな差は認められなかった。このことから、家族に看護職者がいることは、入学時の学生の看護イメージに学校種別で大きな差はないと解釈できる。

### 3. 専修2年における出身校別および臨床経験の有無別の看護に対するイメージ

専修2年の学生について出身校別に比較すると、衛看が准看より看護に対するイメージは好

意的であった。看護職を志望する時期は、その多くが高校時代であるのに比し、衛看の学生は中学時代と早期であることが指摘されている<sup>10)</sup>。さらに、職業的同一性形成の視点から見ると、「早い時期から看護のみを自分の職業と思い定め、他の職業についてはあまり検討せずに入學してきた傾向」や「早期完了」が指摘されており、2年課程の学生がもっとも強いとも言われている<sup>11)</sup>。このことは、「衛看は危機を経ないうちに傾倒に至る者が多い」<sup>12)</sup> という解釈にも結びつく。したがって、専修学校生の職業同一性達成が高いことは必ずしも好ましい状況であるとは言えないという指摘もある<sup>13)</sup>。衛看につい

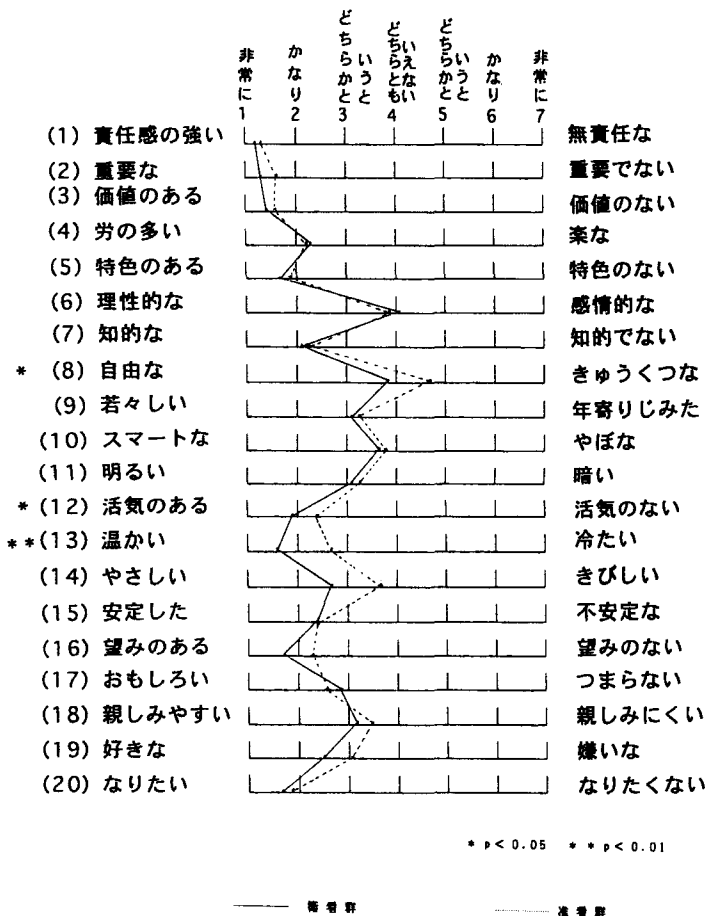


図3 出身校別看護イメージのプロフィール (専修2年)

ては好意的なイメージが、卒業時までどのよう  
に変容するか、縦断的な調査結果を待たねば  
ならないが、これらの特徴をふまえた教育的な  
対応が必要であると考えられる。

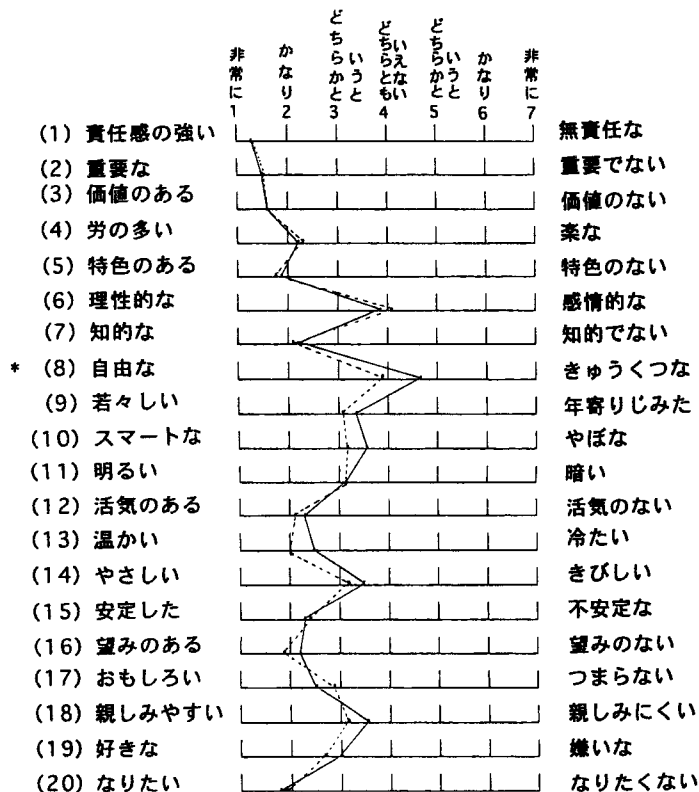
2年課程で実務経験をもつ学生は、看護職へ  
の志向が弱いという報告がある<sup>14)</sup>。これは、実  
務経験を通して看護の現状を知り、躊躇したり  
消極的になっているためと解釈されている。こ  
のように、2年課程の学生について、臨床経験  
はむしろマイナスのイメージにつながると危惧  
する声を聞くことが多い。しかし、今回の調査  
では、臨床経験を有する学生が「自由さが無い」  
とみている以外には入学時には大きな差はない

ということがわかった。2年課程の学生の臨床  
経験の有無が、卒業時の看護に対するイメージ  
にどのように影響するのか明らかにされていない  
ので、今後、縦断的に追跡調査をしたいと考  
えている。

## V. 結 論

学校種別の看護に対するイメージを、入学動  
機別、家族背景別、専修2年における出身校別  
および臨床経験の有無別に比較した結果、以下  
のことが明らかになった。

1. 入学動機づけ大群の割合は、短大生・専  
修3年が専修2年より有意に高い。全体に動機



\*  $p < 0.05$     \*\*  $p < 0.01$

—— 経験あり群    - - - - 経験なし群

図4 臨床経験別看護イメージのプロフィール (専修2年)

づけ大群は看護に対するイメージが好意的であるが、特に短大生の好意度が高い。

2. 家族に看護職者を有するか否は、学校種別の看護に対するイメージに大きく影響することはない。

3. 専修2年の学生を出身校別に比較すると、衛看の方が准看より看護に対するイメージが好意的である。臨床経験の有無では大きな差はみられない。

#### IV. おわりに

前回の調査では、卒業時の看護に対するイメージは専修2年がもっとも好意度が低いという結果となった。しかし、今回の調査では入学時には大きな差があるとは言えなかった。今後、教育の過程でどのように変容するかを縦断的に追跡することによって、イメージの違いの要因を明らかにすると共に、各教育課程に応じた対応のあり方を検討する必要がある。

#### 引用文献

- 1) 石井範子, 志賀令明, 戸井田ひとみ, 伊藤由香: 看護学生の看護に対するイメージの変容について—基礎看護学見学実習前・後の比較—, 秋田大学医療技術短期大学部紀要2: 91-97. 1994.
- 2) 石井範子, 平元泉, 志賀令明, 堀井雅美: 看護学生の看護に対するイメージの変容について(2)—縦断的方法による検討—, 秋田大学医療技術短期大学部紀要5: 51-56. 1997.
- 3) 平元泉, 石井範子, 志賀令明, 堀井雅美: 看護学生の看護に対するイメージの変容について(3)—3年次学生の入学動機および進路志望別比較—, 秋田大学医療技術短期大学部紀要5: 63-67. 1997.
- 4) 石井範子, 平元泉, 志賀令明, 堀井雅美他: 看護学生の卒業時の看護に対するイメージについて—学生の学校種別の比較—, 秋田大学医療技術短期大学部紀要6: 77-85. 1998.
- 5) 内田靖子, 村田恵子, 白石和子, 山本よしゑ他: 看護学生の看護職に対する適応過程に関する研究第1報—進路決定の要因と入学時の看護に対する認識および看護職への志向の強さ—, 東海大学短期大学紀要12: 19-33. 1978.
- 6) 寺島喜代子: 看護学生の学習態度と自尊感情の縦断的研究—ある公立看護短期大学の場合—, 日本看護研究学会雑誌21(4): 7-19. 1998.
- 7) 前掲2) p. 55
- 8) 前掲4) p. 78
- 9) 前掲5) p. 27
- 10) 前掲5) p. 30
- 11) 松下由美子, 木村周: 看護学生の職業的同一性形成を規定する要因の検討, 教育相談研究31: 29-45. 1993.
- 12) 安藤詳子, 内海況: 看護学生の自我同一性に関する研究—職業的同一性形成を規定する教育的要因—, 日本看護研究学会雑誌18(3): 7-19. 1993.
- 13) 前掲11) p. 34
- 14) 前掲5) p. 27